

新年度役員紹介

7月21日の第13回定期大会で下記の方々が新役員となりました。



議長 日高純三 (日本舗道労働組合) 副議長 工川 靖 (東亜道路労働組合) 副議長 桑原 豊 (大林道路職員組合) 副議長 森平大志 (大成ロテック社員組合) 事務局長 長野 滋 (前田道路労働組合) 中央執行委員 桐生伸治 (全大有労働組合)



中央執行委員 吉原浩昭 (東京舗装工業社員労働組合) 中央執行委員 荒木俊一 (フジタ道路職員組合) 中央執行委員 曾根崎義治 (不動建設労働組合) 中央執行委員 澄川 武 (三井道路労働組合) 中央執行委員 丸山祐二 (日本舗道労働組合) 会計監事 池田昌基 (大成ロテック社員組合) 会計監事 森野久美子 (東亜道路労働組合)

雇用確保要請活動

財政改革法案が採択され公共投資の削減が実施されることになり、平成10年度は7%削減の予算が打ち出された。実際に実施されればその影響は、建設産業に限らず全産業に及び、労働人口の1%にも達する60万人もの人々に失業のおそれが懸念される。従来の公共投資には、その意義や効果・効率の観点から、見直すべき点が多々あることは否定できない。しかし、日本社会の中で公共投資が果たしていた雇用確保の役割にも目を向ける必要がある。公共投資に頼らなくても雇用の確保ができる日本の社会の仕組みが整うまでは、働く人々の生活を守り、失業者の大量発生という事態を避けるために、公共投資による雇用の下支えを行う必要がある。

道建労協は、建設産労懇の仲間である日建協・建設連合・全電工労連・全国通建との連盟で前述の趣旨に添った要請活動を3月18日から3月30日までの間、4政党と2発注官庁へ行った。訪問先では、働く者の立場から訴える我々の主張に理解を示した。また、この活動については、日刊建設工業新聞、日刊建設通信新聞に掲載され報道された。

要請日	要請先	対応者
3月18日	自由民主党	山崎政調会長
3月20日	新党友愛	川端政策委員長
3月20日	平和・改革	井上衆議院議員 大口衆議院議員
3月24日	自由党	野田幹事長
3月26日	建設省	風岡審議官 工藤労働資料対策室長
3月30日	労働省	澤田労政局長 中野建設港湾対策室長



● 建設産労懇労使セミナー ●

1998年6月22日(月)に安田生命ホールにて97年度建設産労懇セミナーが行われました。今回は、野川 忍氏による「労働法規制の緩和と労働組合の新たな役割～労働法の改正をめぐって」と木村誠之氏による「今後の建設市場と建設業～中建審の答申について」の講演が行われました。両テーマとも我々の今後の労働条件や建設業界の将来にかかわる重要な内容であり、労使多数の出席者は真剣に講演に聞き入っていました。

最初の「労基法の改正をめぐって」についての内容の概略を説明致します。改正となった各条文についての説明が行われました。その中でも重要な改正の一つは、14条の期間雇用の上限の緩和について、この条文が摘要される労働者の範囲は高度の専門性を持った労働者のみ摘要されるものであり、会社側の恣意的な範囲で14条労働者として労働契約を結ぶことの無いよう労働組合としてチェックする必要がある項目となります。もう一つは、36条の36協定に関する規制強化で、基準時間(300時間と言われる)設定の影響、労働者側の努力義務の新設、行政介入の内容と効果これらの項目が今後の労働条件にどのように反映されるか、状況を注意深く監視していく必要があります。

もう一つ特に大きな問題として、裁量労働制の拡大があります。特に38条の4に於ける労使委員会方式の裁量労働制では、労使委員会が労働時間関連の事項について広範な決議権を持たれることとなります。労使委員会の構成員としての労働組合の重要性は非常に高くなります。

以上のことを考えると、労基法の改正を前提にすれば、今後ますます労働組合の重要性が増えてゆくと思われます。しかし、もう一つの視点として中小企業の組合組織率は僅かに1.6%に過ぎません、このことを考えるならば労基法の改正そのものを認めるかどうかについて議論する必要もあると思います。

次に、「今後の建設市場と建設業」の講演の概略説明を致します。建設業の現状についての説明では、就業者数で90年から97年迄の間に97万人の就業者を受け入れ、サービス業と共に雇用の下支えとなった。しかし、現在は建設業就業者に対する雇用調整が始まり雇用の下支えを担う機能を果たせなくなっている状況にある。又、建設業者の経営状態は、5年連続での利益率低下、不良資産・不良債権による資金繰り悪化等で厳しい状況になっている。倒産についても97年度4,785件で負債総額2兆4千億円と最悪を記録している。このような環境の中で、公共工事のコストの7%削減が実施されるとの説明があったが、6月の補正予算の成立でセミナーの説明とは状況が変わっている。

中建審答申の説明では、建設市場の構造変化に対応した今後の建設業の目指すべき方向として技術と経営に優れた企業が伸びられる透明で競争性の高い市場環境の整備が言われている。ここでは、市場環境の整備ということで、入札契約制度の改善、企業評価の中での技術力と経営力の重視、不良不適格業者の排除等による、技術力での市場競争が行われる市場の整備と、手続きの透明性による規制緩和、ディスクローチャー等による競争環境の整備が挙げられる。企業・業界の自助努力としては、建設業界の構造改革、経営目標の量から質への変換等による新たな企業経営と、生産・経営の効率化、元・下関係の適正化等による建設生産システムの合理化が挙げられる。これらは、大きな変革と言える。



野川 忍氏 木村誠之氏 質問する日高議長

各地で交流会開催される

東北地区単組交流会

去る7月1日、仙台市の第2ワシントンホテルで、組織・対外活動の一環として、地協組織のない地域での意見交換の場として、東北地区単組交流会を開催した。東北地区での単組交流会は94年11月以来、今回で2度目の開催であり、道建労協本部から、日高議長、宮崎事務局長を招き、大林道路職組、不動建設労組を除く、8単組から17名の出席者があった。

当日は7月にしては、蒸し暑い日ではあったが、流れる汗もいとわず、中には青森、山形から来られた方もあり、全員緊張した面持ちで、席に着いていた。交流会の田村幹事役（前田道路労組）の巧みな司会進行により、日高議長の挨拶と本部活動の説明後、今春闘の印象を交えながらの出席者の自己紹介に始まり、各単組の活動状況、抱えている問題、悩みなどの意見交換を食事を取りながら進めていくうちに、非常に打ち解けた雰囲気となった。さらに、出席者全員の賛同が得られ、道建労協加盟単組の東北地区での交流活動として、レクリエーションを企画し、実施することとなった。



7/1 東北地区交流会

中国・四国地区単組交流会

平成10年7月3日（金）広島市にて中国・四国地区合同の単組交流会が開催された。四国地区では過去に開催実績が無いため今回で4回目となる中国地区との共同開催となった。本部より日高議長、工川副議長、宮崎事務局長の3名と加盟単組10単組のうち中国・四国地区に支部のない2単組を除く8単組23名が出席した。和やかな雰囲気の中で懇親が図られ、四国地区は次年度からの単独開催に意欲を見せていた。以下に交流会に参加した両地区の方の感想を掲載する。

▼実質2時間程の意見交換だったため、各単組とも発表に十分な時間がとれなかったが、それでも各単組の抱えている問題点を中心に様々な意見を聞くことが出来、大変今後の活動に参考になりました。今後レクリエーションを含めた一層の交流を期待したいと思います。（中国地区、日鋪労組・木村）

▼中国地区では過去数回程開催しているとのことで、交流の場

は慣れた感じがし、各単組の労働環境や春闘要求についての現状や意見が出され大変有意義な交流会であったと感じます。四国地区では5単組の支部がありますが、今までこのような交流会を開催したことがありません。

今後交流会を開催し、お互いの親睦を図り道建労協の組合員としての連帯感を培って行きたいと思いました。そして、各単組における労働環境の現状や問題点等の意見交換を図り、各単組の枠組みを超え他単組の現状を理解し、より深い広がりのある組合活動につなげていければと思います。（四国地区、日鋪労組・西田）



7/3 中国・四国地区交流会

中部地協セミナー

ゆとり・らいふセミナー開催

これまでの中部地協の活動は「顔合わせ・心合わせ」を主たる目的として、どちらかと言えば、レク活動が中心となっていました。3年前から中部地協の活動、仲間をもっと知ってもらおうとの想いで機関紙「さんば道」を発刊することが出来、地道に活動の幅を広げてきました。更に、前期から一歩進んだ活動を展開させようと、教宣部が中心となって研修会を開催しています。第一回目は我々の業界で永遠のテーマとも言える時短問題について取り組み、受講生相互が意見を出し合い結論は見出せなかったものの、問題意識の共有、将来像（あるべき姿）を見つめ直すことが出来ました。

前置きが長くなりましたが、研修会第二回目として今回の「ゆとり・らいふセミナー」は建設産労懇で推進している事業所の土曜閉所運動とそれに合わせて行っている休日取得アンケート結果から、昔に比べて休みを取れる機会が増えている状況を捉え、余暇をいかに有効に過ごすかを主テーマとしました。余暇を有効に過ごすというと、何をしようか？、どんな趣味を始めようかと考えがちですが、今回はこのテーマをもっと広くとらえ、今までの自分、現在の自分を見つめ直し、将来の設計を組み立てるライフプランの中で個々それぞれが余暇（心のゆとりも含め）というものを考えて頂く内容としました。

本部から日高議長、宮崎事務局長をお招きし、一緒に講義を受けて頂きながら、外部講師の他、日高議長からも基調講演としてリフレッシュを目的にご夫婦でヨーロッパ旅行をした体験談をお話して頂きました。受講生、事務局合わせて総勢24名。最後に感想文を書いて頂きましたが、皆さんから

「大変良かった。」「また開催してくれ。」「他のやつにも聴かせてやりたい。」等々の言葉を頂き、主催した者の一人として大変嬉しく思いました。今後も組合員の皆様のニーズに応えるべく、第三回の研修会を考えていきますので次回も多数の参加をお願い致します。



6/13 中部地協セミナー

九州地区単組交流会

平成10年7月4日（土）八仙閣（福岡市）において第4回目の九州地区交流会が開かれた。休日にもかかわらず、本部役員を含め9単組19名での交流会となった。中には家族サービスを途中でなげうって参加された方もおられた。（感謝）九州地区では94年11月の第1回交流会を皮切りに95年6月にはボウリング大会が開催された。今回は96年11月以来約2年ぶりの開催の為、顔合わせを主眼においた。司会の福田さん（東亜道路労組支部書記長）の進行により、自己紹介、単組毎の活動の報告が行われた。また、組合に対する関心が薄れだし、役職を引き受ける人がいなくなっている。オルグの際、年代により発言の少ない場合があり、年代間のギャップをどうするか苦慮している。九州地区は7県と非常に範囲が広いので一同に会する機会が少い。一人現場が多いため代休が消化できない等の問題点が出された。最後に九州地区での今後の活動について話し合いが行われた。更に交流を深める為に、支部役員の交流会とは別に、一般組合員の参加で

できるレクリエーションを開催する提案が出された。そして年内にボウリング大会を開催し、今後も継続していく事が決定され、閉会となった。



7/4 九州地区交流会

機関紙名公募結果

昨年秋、この機関紙の新しいタイトルを公募しましたところ、各単組の皆様から、全部でちょうど100件という、予想を遙かに超える多数のご応募を頂きました。

98年2月10日(火)に開催した中央執行委員会にて、最終審査を行いました。その結果、上位の3作品が以下の通り決定しました。

最優秀(第1位) PAVE 全大有労働組合 山下 正則さん
 優秀(第2位) フリーウェイ フジタ道路職員組合 伊藤 均さん
 優良(第3位) 交差点 日本舗道労働組合 三井 明子さん

これを受けて、今回発行号から機関紙名を「道建労協」から「PAVE」に変更しました。また、第2位の「フリーウェイ」につきましては、今回から新しく設けた1面の常設コラムのタイトルとして使わせて頂くこととしました。

また、上記3名の皆さんには賞金を、それ以外の応募者の皆さんには粗品をお贈り致しました。

「PAVE」についての山下さんのコメント
 pave・・・英語で、道を舗装するの意。
 pave the way for ～・・・～の先導をする。道を開く。

我々、道路建設産業に携わる仲間の道しるべとなり、力強く、活力ある産業の未来を切り拓いていく。そんなイメージの機関紙名です。



新タイトル「PAVE」の タイトルロゴ募集のお知らせ

上記の通り、機関紙の新タイトルが「PAVE」に決まりましたが、今回の1面のタイトルロゴは仮のものです。

次号以降に使用するタイトルロゴを、読者の皆様から公募したいと思います。ふるってご応募下さい。お待ちしております。

- 応募先 ご自分の所属単組の本部宛
 (下記 加盟単組一覧表参照)
 応募締切 11月30日(月)到着分まで有効
 注意事項 手書き、CGなど様式は問いませんが、そのまま印刷版下に使える形でお送り下さい。
 審査 12月開催の中央執行委員会にて、各単組からの役員が集まって審議。
 賞金 採用作：5万円、次点：2万円、次々点：1万円

道路建設産業労働組合協議会(道建労協)加盟単組一覧表 (1998年8月現在)

単組名	設立・組合員数	本部住所・TEL・FAX
大林道路職員組合	昭和50年2月1日 1,260名	〒107-0062 東京都港区南青山 1-24-1 TEL 03-3796-6760, FAX 03-3796-6766
全大有労働組合	昭和50年8月20日 300名	〒460-0022 名古屋市中区金山 5-14-2 TEL 052-882-9730, FAX 052-881-8687
大成ロテック社員組合	昭和46年1月15日 1,240名	〒104-0031 東京都中央区京橋 3-13-1 TEL 03-3564-3164, FAX 03-3561-7075
東亜道路労働組合	昭和50年10月18日 1,120名	〒106-0032 東京都港区六本木 7-3-3 TEL 03-3403-9355, FAX 03-3403-9380
東京舗装工業社員労働組合	昭和35年6月 310名	〒101-0021 東京都千代田区外神田2-4-4 TEL 03-3253-5981, FAX 03-5256-0439
日本舗道労働組合	昭和48年12月16日 2,400名	〒104-8380 東京都中央区京橋 1-19-11 TEL 03-3563-6744, FAX 03-3535-4810
フジタ道路職員組合	昭和63年11月22日 360名	〒103-0027 東京都中央区日本橋 3-15-8 TEL 03-3271-7961, FAX 03-3271-7965
不動建設労働組合	昭和51年8月 60名	〒110-0016 東京都台東区台東 1-2-1 TEL 03-3835-0219, FAX 03-3835-0270
前田道路労働組合	昭和27年3月17日 1,640名	〒141-8665 東京都品川区大崎 1-11-3 TEL 03-5487-0050, FAX 03-5487-0051
三井道路労働組合	昭和51年8月15日 330名	〒108-0023 東京都港区芝浦 2-17-13 TEL 03-5765-7791, FAX 03-5765-7694
道建労協本部	昭和60年12月21日 (9,020名)	〒104-8380 東京都中央区京橋 1-19-11 TEL 03-3562-5857, FAX 03-3535-4810

編集後記

前回発行から半年以上が経過してしまいました。新しい号をお届けするのが遅くなってしまい、申し訳ありません。
 新しいタイトル「PAVE」としての第1号です。また、新しく常設コラム「フリーウェイ」もスタートしました。
 今後は、従来以上に親しんで頂ける機関紙作りをめざしてまいります。年間4回の発行を予定しております。
 「PAVE」についてのご意見、ご希望、ご批判など、何でも結構ですので、多数お寄せ下さい。お待ち申し上げます。
 (日本舗道労働組合・丸山)

正しいのはどれ? もの知りクイズ

イラスト・出題 ●モロズミ勝

10月の第1土曜日

Q1 「土」と「土」は「土」です。秋の味覚は「土栗」という名のどろろで。

1 クリの仲間
2 イモの仲間
3 マメの仲間
4 キノコの仲間

10月10日

Q2 「マクロの幼魚」は「マクロの目」でもあるよ。通称、何という?

1 カキノタネ
2 スイカノタネ
3 リンゴノタネ
4 ブドウノタネ

明治27年(1894)10月21日

Q3 探偵「明智小五郎」生みの親、推理作家「江戸川乱歩」誕生の「怪人「干面相」の本名は、遠藤平吉。」

1 田中邦衛
2 六戸錠
3 石坂浩二
4 高橋英樹

〈応募方法〉下記を明記してお送り下さい。正解者の中から抽選で超豪華な粗品!をプレゼントします。たくさんのご応募お待ちしております。

- 回答
 - 賞品送り先住所・氏名及び所属単組名
 - しめきり 11/20
 - 今月の紙面でよかった点、気づいた点がありましたらご意見もぜひお寄せ下さい。
 - 宛先 〒104-8380 東京都中央区京橋1-19-11 日本舗道労働組合内 道路建設産業労働組合協議会「PAVE」宛 FAX 03-3535-4810
- ※発表は次号(1月発行予定)